湘友会報

湘南高等学校湘友会事務所
<月・水・金 13：00～16：00 在室>
〒251-0053
藤沢市本町３－１－３　湘南ビル 301
電話・FAX　0466－50－0386
shoyukai@cityfujisawa.ne.jp
http://www.shoyukai.org

祝　根岸英一さん(28 回) ノーベル化学賞受賞

９０周年記念募金

ご協力ありがとうございました

募金額合計（平成 23 年 3 月 31 日現在）

１０５，７４０，０００円

<募金件数：４，０５４件>

＊当募金活動は、平成 23 年 6 月 30 日をもって終了とさせていただきます。

湘友会会員の皆様へ

湘友会会長　田辺 克彦

去る3月11日東北地方太平洋沖で発生した未曾有の大地震、大津波、そして原子力発電所事故等による東日本大震災で被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心からお祈り致します。この大震災発生直後に、今年の卒業生から、湘友会のもとに義援金活動の先頭に立ちたいとの申し出がありました。テレビや新聞の報道により、想像を絶する悲惨な状況を知れば、誰しも手を差し伸べたいと思う気持ちは当然であると思います。

母校からの要請もあり、湘友会としても義援金の活動を始めることにしました。3 月 22 日に銀行口座を開設してホームページにアップしましたところ、早速、「東京湘南有志の会」からもご芳志を頂きました。会員の皆様におかれましては事情ご賢察の上、ご協力をお願い致します。

さて、母校は今年創立 90 周年を迎えます。湘友会は、この記念事業の一環として、母校の歴史的教育資料を展示する校史資料館（仮称）を建設するため、一昨年秋から募金活動を始めさせて頂きました。皆様の多大なご協力により左記に掲載のように多額のご寄付を頂くことができました。誠に有難うございました。ここにご報告申し上げますとともに、篤く御礼申し上げます。（収支報告をＰ．11 に掲載）

ご寄付のうち、募金の為の事務経費等で約 667 万円を使い、さらに約 900 万円を資料の編集や映像化等のための資金に充てることが出来ました。そして、昨年９月 11 日の臨時役員会で資料展示のための委員会を設置し、委員長に川井校長先生に就任して頂いて、母校と湘友会で協力しながら展示の内容・方法等について検討し、可能な限り資料館の設計プランに織り込んでもらう努力を致しました。３月下旬には県、落札設計者、母校と湘友会の関係四者の協議によって建築内容はほぼ決まりました。今秋には工事完成の予定でいますが、大震災の影響もあり資材の調達等工事の進捗に多少不安が残ります。何とかして早めに工事を進め、完成の暁には素晴らしい資料館を皆様に見て頂きたいと思っています。

この資料館は、母校の歴史的資料や卒業生の社会での活躍資料を展示するだけのものではなく、この中に湘友会の事務所も移り、会議室や、母校でのキャリア教育をサポートする「土曜講座」等のセミナー会場も備えた多目的・多機能の建物です。

この会館は、これからの湘友会活動の拠点となるものですが、とかく卒業してしまうと母校と疎遠になってしまいがちな卒業生と母校との距離を大幅に縮めて

湘

くれるのではないかと大いに期待しています。

しかし、問題は資料館の運営です。近いうちに母校と協議し、会館の運営委員会を発足させ、その委員会で運営の仕方を決めて行くことになると思いますが、皆様の募金により素晴らしい会館を建設するのですから、出来れば土曜も日曜も開館できる体制を取りたいと考えています。ただ、貴重な資料が多いので、これらの管理にも十分に注意を払う必要があります。

また、より理解を深めてもらうためには展示資料の説明・案内係も必要であり、これらの役割も兼ねて展示資料を日々管理する係員が是非とも必要となります。この係員を湘友会の会員のボランティアで対応出来ないかと考えています。

そして、会員の皆様が気軽に立ち寄り、卒業生同士の親睦が深められ、在校生や先生方とも交流でき、その上で母校の教育を支援し易い環境が自然に醸成されるような運営をしていきたいと考えています。また、親しみ易い、憩いの会館になるよう資料館に代わる愛称も会員の皆様から募集していきたいと考えています。皆様から素晴らしいご提案を頂きたくお願い致します。

ところで、昨年秋に、28 回生の根岸英一博士がノーベル化学賞を受賞され、私達母校関係者に大きな喜び、感動、誇り、そして希望を与えてくれました。

今秋、母校が主催する創立 90 周年記念式典で全生徒を対象に根岸博士にご講演をお願いしておられるとのことですが、湘友会でも、早速この資料館に「根岸コーナー」を設けて偉業を称え関係資料を収集し展示することを企画しています。根岸博士のノーベル賞受賞も勿論ご本人の大変なご努力の結果でしょうが、博士ご自身も母校での充実した高校生活がご自分の原点だと言われていたことからも、母校の全人的教育の一つの成果とも言えるのではないか思います。

また、根岸博士は昨年文化勲章を受章されたことから、文化功労者にもなられました。同時に 32 回生の中西準子博士と指揮者の 53 回生大野和士さんも文化功労者になられました。母校の教育理念である文武両道の「文」の方の象徴は今、百花繚乱という素晴らしい状況になり、誠に嬉しい限りです。

最後になってしまいましたが、湘友会の財務の窮状から会費の値上げを提案させて頂きます。湘友会の財政は主に入会金と会費の収入で賄われていますが、このところ会費納入率は低下し、単年度 300 万円強の赤字となっています。そこで、昨年暮れの役員会で値上げ議案を提出させて頂き、この５月の役員会で最終的な審議を経て議決し、本年度の総会でご報告することになりました。資料館の完成によりこれまでに増して湘友会活動を活発にしていくためには、財務的基盤を確立しなければなりませんので、会員の皆様には何卒ご理解頂きたいと存じます。

以上お願いばかりになってしまいましたが、今後とも湘友会は卒業生同士の親睦とともに母校の教育を強力に支援していきたいと思いますので、是非とも皆様のご理解とご協力をお願い致します。

ノーベル賞授賞式に陪席して

鈴木健次（28回）

たまたま湘南高校３年のときの同級生根岸英一が私の妹と結婚した縁で、親族としてノーベル賞受賞式と晩餐会に招待される幸運に恵まれた。授賞式前後には他にも記念コンサート、各種レセプション、ストックホルムの市内観光など様々な行事が組まれていて、それぞれ受賞者とその配偶者のみとか、家族まで、ゲストを含めて最大８名までなど、参加資格が決められている。ドレスコードもビジネススーツ、燕尾服あるいは民族衣装などとそれぞれに規定があった。予約していたフィンランド航空がストに突入して急遽ブリティッシュ・エアウェイに変更になり、しかもその便が大幅に遅れたため、ジョシュア・ベルによるチャイコフスキーのバイオリン協奏曲が聴けなかったのは残念だったし、ノーベル委員会に手配を依頼してあった燕尾服が手違いで用意できていなかったのには慌てた。

ストックホルム市内に何軒貸衣装店があるか知らないが、何千人という人たちが式典に押し寄せている最中である。不案内な市中をタクシーを乗り回して紹介された衣装店に着くと、見本を並べた１階も地下の試着室もごった返していた。ようやく寸法を測ってもらいワイシャツやカフスボタンを買って、ホテルのフロントへ届けてもらう約束をして引き揚げたのだが、翌朝になっても届かない。慌てて店に電話をしている最中に部屋の衣装棚の中に届いているのに気が付いたのだが、ワイシャツのボタンとカフスボタンがない。またまた大慌てで電話する始末だった。市内でテロによる爆破事件があったりして特に警備が厳重だったのかもしれないが、ノーベル賞の金メダルが押印された招待状とパスポートを持参し、決められた服装をしていないと会場に入れないので一大事であった。

授賞式はストックホルム・コンサートホールで行われた。ステージ右手にロイヤル・ファミリー、左手に受賞者、その後ろに審査員などがずらりと並び、物理学賞、化学賞、生理学・医学賞、文学賞、経済学賞と各賞ごとに舞台の上の階のオーケストラボックスから音楽が鳴り響く。そして受賞者の業績がスウェーデン語と英語で紹介されてから、１人ずつ国王から賞を授与される。授賞式と晩餐会の模様はテレビで放映されたそうだからご覧になった方も多いと思うが、私がもっとも印象的だったのは、厳重な警備とは裏腹にスウェーデン王室がきわめて開放的だったことだ。

私に指定された席は最前列で、すぐ目の前に国王、王妃、皇太子、皇太子妃などが入場された。見ているとプリンセスは知人や友人に気づくとにこやかに手を振ったり目で合図したりして、普通の列席者と変わるところがない。後で面白い話を聞いた。わが妹は皆目理解できないスウェーデン語の長広舌に、不覚にも式典中ウトウトしたらしい。プリンスがそれに気づいて

いて、晩餐会場に「根岸夫人」をエスコートするときに、傍らの彼女にこう言われたというのだ。「アナタはさっきちょっと居眠りをしていたでしょう。私の義母も（王妃のこと）長い式典でよく眠るんですよ。だから気にしなくていいです。でもこれから私と並んで食事する間だけは眠らないでくださいね、私がとても退屈な男だと思われますから」。何と暖かいユーモアに包まれた警告であることか。

それにしても根岸英一がプリンセスをエスコートし、プリンスがわが妹をエスコートして華麗な晩餐会場の階段を降りてきたのには驚いた。そして優雅なショーを見せながら千人をはるかに上回る客に、一斉に、温かい料理は温かく、冷たい料理は冷たくして出してくる進行ぶりにも目を見張った。しかも締めくくりは受賞者を代表しての根岸英一の挨拶であった。すでに半世紀もアメリカで生活してきたのだから当然かもしれないが、紹介者の“Eiichi Negishi”という発音を、これまでアメリカで自分の名前を呼ばれた中でいちばん正確で上手な発音だったと褒めて会場を和ませてから本題に入るという、見事なスピーチであった。その語学力も、基礎が培われたのは大和中学や湘南高校の時代だと思うと、感無量であった。彼は常々「自分の基盤を作ってくれたのは湘南高校だ」と言っている。

写真(略)
スウェーデン国王よりノーベル賞を受賞

中学生時代の根岸英一は、決して出身校大和中学を代表する優等生ではなかった。むしろ毎日遊び仲間と地元の相模カントリークラブに忍び込んで池で泳いだり、ロストボールでゴルフの真似ごとをしたり、周辺の林で山芋掘りに熱中したりしていた少年であった。高校１年の終わりに成績が学年で 123 番だと知らされ、「これまで教室でしか勉強しなかったのに 123 番なら、本気になればトップになれる」と考えたそうだ。普通なら自分より上に百人以上優秀な生徒がいると知ったら、まさか１番になれるとは考えないと思うが、そこが常人とはちょっと違うところなのかもしれない。２年になってから猛勉強を始め、３年になって本当に実力テストでしばしば１番になり、廊下に名前が張り出されたりした。

３年のときに私たちの受け持ちだった久保田久作先生が拙宅にいらして、「鈴木は成績が下がるばかりだ。近くに優秀な根岸が住んでいるのだから時々彼のところに勉強を教わりに行ったらどうだ」と言われたことがある。親友の森稔（現森ビル社長）と同人雑誌に夢中だった私は根岸の家に行かなかったが、彼の方がその頃からよく私の家に来るようになった。新著『夢を持ち続けよう』に恩師ブラウン博士からとともに私の父からも深い感化を受けたと書いているから、音楽好きの彼は作曲家の父を慕って来てくれたのかもしれない。そんな日々が、後に根岸と私の妹が結婚することに繋がったのであろう。

湘南高校スロープで全校生徒から歓迎

鈴木 健次 氏 (28 回)

ノーベル賞を受賞した彼は揮毫を頼まれると Pursue your Lofty Dream with Eternal Optimism! と書く。彼がノーベル賞という夢を持つようになったのは、身近にブラウン博士をはじめ受賞者が大勢いたアメリカに行ってからだと思うが、彼の夢は今回の受賞で終わらないようである。根岸はいま専門の触媒化学の研究をさらに進め、植物にしか起こらない光合成を人工的に実現し、環境問題の元凶のように言われている二酸化炭素を利用して食糧その他様々な化合物を作り出そうという壮大な夢に挑戦している。もしそれが実現すれば、環境問題をはじめ、食糧問題、エネルギー問題など、人類に迫っている大問題が解決されるであろう。自分でその夢を達成することは難しいかもしれない。しかし研究の種を蒔けば、そこから必ずまたノーベル賞受賞者が複数育つと確信しているのである。

放送部生徒よりインタビューを受ける根岸氏

ストックホルムの１週間はすばらしかったが、冬の気候は厳しい。朝の８時をすぎないと夜が明けないし、午後３時を過ぎるともう暗くなる。道路は凍てついて油断するとすぐ滑って転ぶ。転んでせっかく土産に買ったノーベル賞の金メダル型チョコレートを道路にまき散らしたりした。今度は夏の晴れやかなストックホルムに行き、スケジュールに縛られずに根岸と旅を満喫したいと思っているが、当分この夢は実現しそうにない。

９０周年を飛躍の節目に

湘南高校校長　川井　陽一

湘友会の皆様には、日頃より湘南高校の教育活動に深いご理解とお力添えを賜わり厚く御礼申し上げます。

いよいよ創立 90 周年という記念すべき年を迎えることになりました。90 周年記念事業としての「校史資料館」（仮称）建設におきましては、田辺会長始め役員の皆様の多大なるご尽力の下、多くの卒業生の皆様から多額の募金をお寄せいただき、今年度着工完成の運びとなりました。皆様のご支援に改めて深く感謝申し上げる次第です。

校史資料館は、赤木愛太郎先生以来の「湘南」の歴史、伝統及び「湘南」の精神を広く世に問うために、さらにはわが国の教育そのものを考える上でも高い意義を有すると確信しています。同時に、卒業生の方々同士あるいは卒業生の方々と在校生の出会いや交流のための貴重な場になると考えています。まさに「湘南」の集積、継承、発信の拠点として「校史資料館」の果たす役割は計り知れないものがあると大いに期待しております。

ところで、私も着任５年目を迎えることになりました。着任以来、赤木愛太郎先生に学びながら、「極めて高いレベルの文武両道」を追求することにより、公立の雄「湘南」復活を目指し学校づくりに取り組んでまいりました。

生徒の自覚と意欲の高まり、職員の指導が相俟って各方面で成果が明確にあらわれ始めています。今年度進学面において、例えば東工大合格者数 22 名は全国一位であり、早稲田大学 174 名は公立高校としては全国一位、さらに国公立医学部９名合格等、近年にない実績となりました。部活動においても、フェンシング個人でジュニアワールドカップ出場という快挙を成し遂げた生徒を筆頭に、各部が目標を高く掲げ努力を重ねています。遠くない将来、必ずや結果に反映するものと期待しています。体育祭や文化祭等の学校行事も以前にも増して活発であり、見事な内容のものを創りあげています。

今、全日制を中心に筆を進めてきましたが、定時制においてもまた教育活動の充実、生徒の積極的な学校生活への取り組みが見られ、湘南高校全体として飛躍のあるいは躍進の手応えを感じています。

90 周年を前に根岸英一先生のノーベル賞受賞は、湘南全体にとって、これ以上はないうれしい出来事でした。11 月 24 日には、先生にご来校いただきご講演を賜わることができました。ノーベル賞受賞の報に接し、加えて先生のご講演をお聞きし、生徒も湘南で学ぶことへの誇りと感謝の念を強くもち、自信を深めているように感じています。

湘友会におかれましては、校史資料館建設はもとより、キャリア教育講演会や土曜講座、さらには部活動においても多大なるご支援をいただき、心より感謝しております。名実共に公立の雄「湘南」復活に向けてさらに努力を重ねてまいります。引き続きご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

母校への支援

◆ キャリア教育講演会

学校の教育計画に基づき生徒の将来におけるキャリア形成に役立てることを目的として、2006 年度から始まりました。各学年の生徒全員を対象に学年ごとのキャリア教育のねらいに沿って、各界で活躍している本校の卒業生による講演会を年１回ずつ実施しています。

＜３年生＞［2010 年 5 月 31 日］
講師：入不二　基義氏（52 回）
演題：「ガキとオヤジと、子どもと大人」
経歴：青山学院大学教授（哲学）

＜２年生＞［2010 年 9 月 27 日］
講師：鹿島　茂 氏（43 回）
演題：（氏のこれまでの生き方について述べられた）
経歴：明治大学教授　フランス文学者・作家

＜１年生＞［2011 年 1 月 17 日］
講師：伊東 節二氏（43 回）
演題：「Be Ambitious → ∞
高校生としてやっておくべきこと」
経歴：自動車ビジネスコンサルタント

◆ 土曜講座

キャリア教育の一環として、全学年の生徒(希望者)を対象に、各界で活躍している本校の卒業生を講師として、その専門分野に係わる講話をしていただきます。生徒のキャリア形成の一助にすることを目的として 2008 年 11 月から始まり、年６回実施しています。

内海邦一氏（48 回）

＜6 月＞
講師：内海 邦一 氏（48 回）
演題：「目指せ！みんなの人気者！！
～テレビ制作のノウハウから学ぶ
コミュニケーション能力アップ術～」
経歴：放送作家

＜7 月＞
講師：小野 正典 氏（42 回）
演題：「日本の刑事裁判
～お白洲の時代から裁判員裁判まで
その実態を探る～」
経歴：弁護士

＜10 月＞
講師：宮　晶子　氏（48 回）
演題：「水処理から水ビジネスへ」
経歴：荏原エンジニアリングサービス法務・審査室長

＜11 月＞
講師：尾島　巌 氏（39 回）
演題：「医学薬学境界領域での最前線の研究」
経歴：ニューヨーク州立大学首席教授（有機化学）

＜12 月＞
講師：山田　不二子 氏（54 回）
演題：「ＮＰＯが国の縦割行政を打破する！？
～子ども虐待防止活動を通して知った
縦割行政の弊害～」
経歴：子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク理事長

＜2 月＞
講師：鈴木　毅 氏（39 回）
演題：「ミュージカル俳優が語る歌・踊り・ドラマの世界
～オペラ座の怪人、ミュージックナンバーを
大いに語り、大いに歌う～」
経歴：元劇団「四季」ミュージカル俳優　沢木 順

鈴木 毅 氏（39 回）

資料館展示準備作業始まる

校史資料館（仮称）は、県の事業として設計が本年３月末に完了し、建設業者の公募入札を経て、いよいよ工事が開始されます。東日本大震災が、全国的に建設資材の流通などにも影響を及ぼすことはあり得ますが、当館の早い完成を祈るばかりです。

湘友会は昨年 10 月、学校との共同プロジェクトとして「湘南高校資料館準備合同委員会」を発足させました。委員長には川井陽一校長が就任し、学校、湘友会あわせて総勢 36 名で編成されています。

資料館展示のコンセプトは、委員長の提案で「今日まで脈々と受け継がれてきた赤木教育の成果と将来への継承」とし、すでにこれを具体的に展開する作業に着手しました。

建物全体は、当初計画通り大きく分けて資料展示ゾーン、卒業生と生徒との交流ゾーン、会議室・事務室ゾーンの３エリアで構成されます。

資料展示ゾーンは、最も苦心するエリアです。開校以来今日までの湘南の教育史を単なる陳列でなく、集められた資料（現物、写真、・・・）や映像を駆使して、湘南の襷がリレーされてきた湘南ヒストリーを表現できるものとします。

テーマを絞ったいくつかの特別スペースも企画しています。例を挙げると、「赤木愛太郎」コーナーには、川井校長が「日本の中等教育の歴史上、輝きを放つ教育理念であって、現代でもほとんど通用する」と日頃から強調されている赤木イズムを、全国に発信できるものとします。その真髄である文武両道の「文」の代表として、「根岸英一さん」コーナーを設け、ストックホルムにおける授賞式典の模様などを展示し、現役生徒達を勇気づける根岸ワールドとします。一方、「武」の象徴として「野球、蹴球、ブラスバンドの全国優勝」コーナーを設け、人間ドラマで表現して現役諸君へのエールとします。

さらに、「卒業生の活躍」では、各分野で活躍中の、あるいは活躍したおおぜいの卒業生に登場してもらい、生徒達に「未来の君達が、あなた達がそこにいる」という視点から紹介します。「校歌の生い立ち」では、湘南の校歌は日本一、これを歌いつなぐことを意識した展示とします。コーナー「湘南高校 NOW」は、文武ともに往年の勢いを取り戻しつつある母校の現役生徒達が、自由に湘南の今を表現し発信できる場、青春の磁場となることを期待します。

館内中央部分の広いスペースが「交流ゾーン」です。卒業生と生徒との出会いの場、新しい発見と出会いの場とし、セミナー会場として、あるいは卒業生同士の集会場としてはもちろん、予測もつかない活用方法が創られていくことを期待しています。

常時展示しきれない資料も含めたすべてのデジタル化保存、各種の映像ソフト制作等、他にも企画は盛り沢山です。会員の皆様におかれては、これまで以上に、新たな資料の提供等ご協力をお願いいたします。

（湘南高校資料館準備合同委員会）

湘南高校 Now

「繋ぐ」…今年はこの言葉をずいぶんと感じ、耳にしました。根本には川井現校長が掲げる「湘南高校ルネサンス（復興）」の提唱があります。

川井校長は、赤木愛太郎初代校長が目指した「文武両道で日本一の学校を創る」という理念を、「Always do what you are afraid to do !! 最も困難な道に挑戦する」というスローガンにして繋いでいます。今年度は、この意気込みが成果を結びました。

○「湘南伝統の文武両道」を繋ぐ

韓国の公共放送局ＫＢＳが、真のリーダー教育をテーマに番組作りをし、知のトップ東大を目指しながらも熱心に部活動を実践している湘南高校の生徒を取材しました。

取材を受けた松田君
この春、現役で東大も合格！

朝日新聞はその取材の様子を９月 15 日朝刊に、「湘南高校『文武両道』を見た」と題して報道しました。ＫＢＳの取材は高３の 10 月までラグビー部に打ち込む２人の選手にスポットを当てた取材でした。また取材の日は体育祭の練習真っ最中。韓国の取材クルーは湘南生が行事に打ち込む主体的で熱心な活動にビックリしていました。

○「先輩が作ってくれた伝統を繋いでいきます。」

体育祭総務長長の伊藤哲馬君の力強い宣言です。その言葉通り今年も各色見事なパフォーマンスを見せてくれました。そしてそれを支えた体育祭実行委員会も伝統を繋いでくれました。体育祭に限らず、文化祭・合唱コンクール・駅伝大会・予餞会・対組競技とそれぞれ実行委員会が支え伝統を繋ぎました。そして今年見えた新たな課題を、来年はどう乗り越えて繋いでいくかが楽しみです。

○先輩から後輩へ繋ぐ

国際大会に出場したフェンシング部和田花子さん、諏訪康貴君を中心にしたジャグリング部の活躍の背景には、湘友会や湘騎会（フェンシング部ＯＢ会）のサポートがありました。資金援助だけでなく、先輩たちが応援してくれているという精神的サポートにもなりました。現役の活躍を先輩が支えることによって各部の伝統が正に繋がっています。

○「全国区湘南」を繋ぐ

次ページの進路状況をご覧ください。東京工業大学の合格者数は全国でトップ。早稲田大学は全国の公立高校で１位。慶應義塾大学も３ケタなど…。各大学で躍進しています（4／1中間集計）。進学面においても「全国区湘南」を繋ぎました。

今回は、「繋ぐ」をキーワードにして湘南の一年を概観しました。ノーベル化学賞を受賞された根岸英一氏も本校での講演の中で、「私が最後ではありません。」とおっしゃいました。湘南生はこの言葉を繋ぎたいと意欲に満ちています。　　（副校長　加藤充洋）

吹奏楽部東関東大会出場 ♪

2010 年８月に開催された神奈川県吹奏楽コンクール高校Ａの部で見事金賞を受賞し、県代表として東関東吹奏楽コンクールへの出場を果たしました。９月の東関東大会では銅賞受賞という 45 年ぶりの快挙です。

ある部員の言葉を紹介します。「…演奏にあたっても、音を出さない誰かが後ろに絶対いると思うんです。コンクールも演奏しない１年生とか、全部あわせた音を舞台で鳴らさなきゃいけない。乗っている人数だけの音しかしないっていうのは駄目だって、このコンクールで思って。壮行会の時にも沢山のＯＢの方々にいらしていただいて、いろんな応援メッセージもいただいて。そういうことを考えると、自分たちだけの部活じゃない、後ろにいる人や、前で聞いて下さっている人のことを考えられる、ただ演奏するだけで完結しない部活になってほしい。」

部員たちは、この大会を通じて大きく成長しました。

（顧問　伊藤）

和田さん

サッカー部スペイン遠征

初の高校生ジャグリング全国大会開催成功

和田さんジュニアワールドカップ出場

フェンシング部の和田さん(現３年生)が、ジュニアワールドカップへ日本代表として出場しました。

和田さんは千葉県出身で、中学時代からフェンシングに取り組んできました。中学卒業と同時に藤沢へ引っ越して湘南高校に入学。１年生からすぐに活躍。県高校総体でフルーレ優勝、同・エペ優勝。２年生では、東京都ジュニア選手権で３位入賞（ジュニアは17歳以上20歳未満が対象)。県高校総体でフルーレ優勝、同・エペ準優勝。ジュニア強化選手選考会３位入賞。

和田さんは、攻めるも良し、守るも良しの万能選手です。特に接近戦に強く、競り合いで負けません。 体力、持久力があり、予選から決勝戦までの長丁場でも戦えます。瞬発力を使っても息があがらないのも強みです。

～和田さんの遠征の感想～

「海外試合は初めてでした。外国人選手は身長が高く、プレースタイルも違います。初戦のオーストリア大会は思うように力を発揮できないまま全敗に終わりました。しかし次のスウェーデン大会はオーストリアで学んだことを活かし、小技を使うなど背が小さいなりに工夫し、３勝できました。自分の課題を見つけることもでき収穫は大きかったです。周りへの感謝を忘れず、次へ繋げ挑戦していきたいです。今回のご支援ありがとうございました。」　　（コーチ　大川　46回）

サッカー部スペイン遠征

昨年で４回目の遠征は、2010年３月25日から10泊11日の行程で、１・２年生41人が参加。今回はロンドンに滞在し、プレミアリーグ最強のチェルシー・ユースとの試合。相手選手の不慮の事故で選手が集まらない事もあって２－０で勝ち。その後、スペインのビルバオへ転戦。アスレチック・ビルバオは、初回から交流してきた相手でスペイン・リーグ１部の強豪。このユースには０－４で敗れました。チームは５試合を経験して帰国。遠征などの効果として、新入部員が倍増。遠征参加者が多すぎるのが今後の課題です。

（サッカー部ＯＢ会事務局　関　48回）

初の高校生ジャグリング全国大会開催成功

昨年、同好会から部に昇格したばかりのジャグリング部は、「ジャグリングの高校生全国大会を湘南高校で開催したい」と考えて早速実行。諏訪部長を中心に部員たちは、ジャグリング協会の後援の取り付けや、審査員（プロのジャグラー）への依頼、ルールの精査など綿密に準備を進めました。まさに高校生パワー全開です。ところが困ったことに生徒会予算ゼロの部活で、開催費用が全くありません。そこで、湘友会の会合の折にジャグリングを披露しカンパを募りました。これが大成功で文字通り「芸は身を助く」となった次第です。約50名がエントリーした映像による予選審査を本校が担当したため、大会ルールにより本校生徒の出場は見送りとなり、裏方に徹しましたが、スムーズな運営、レベルの高い演技に会場は大いに盛り上がり、素晴らしい大会になりました。　　（顧問　斉藤）

生徒数

(2011年４月１日現在)

	１年生	２年生	３年生	計
男子	１９８	２００	１７８	５７６
女子	１６３	１６１	１３６	４６０
計	３６１	３６１	３１４	１０３６

進路状況　主な大学の合格者数 (2011年４月１日判明分)

大学名	合格者	大学名	合格者
北海道大	５	京都大	２
東北大	３	奈良女子大	１
筑波大	５	大阪大	４
宇都宮大	１	神戸大	１
群馬大	１[１]	広島大	１[１]
千葉大	２	香川大	１[１]
お茶の水女子大	３	九州大	１
東京大	１０	琉球大	１
東京医科歯科大	１[１]	福島県立医科大	１[１]
東京外語大	４	首都大学東京	９
東京海洋大	２	横浜市立大	１１[１]
東京学芸大	１	県立保健福祉大	１
東京芸術大	１	防衛大学校	１
東京工業大	２２	防衛医科大学校	１[１]
電気通信大	１	早稲田大	１７４
東京農工大	５	慶應義塾大	１００[１]
一橋大	１０	上智大	３３
横浜国立大	１６	東京理科大	６０
富山大	１[１]	明治大	１２６
信州大	１[１]	青山学院大	５７
浜松医科大	１[１]	立教大	７０
名古屋大	１	中央大	７８
名古屋工大	１	法政大	３５
滋賀大	１	明治学院大	３８

※[　]内は、うち医学部合格者数
他にも自治医科大、慈恵会医大など私立医学部に１４名合格

湘友会新入会員数

2011年３月の湘友会新入会員数は、全日制318名、定時制92名、合計410名でした。

２０１１年春の湘南高校教職員異動　　（略）

先生方の湘南回顧録 ⑥

2010年7月　「古文書を読む」　全41・45回生と
於：湘南高校セミナーハウス　研修室

教壇に立った頃

元湘南高校社会科教諭・教頭
杉山　浩一郎
（昭和３２年～５９年・６２～６３年　在職）

回顧録への執筆依頼を安請け合いして、「僕は器ではないナ」と思い悔いたが退かれず、多方面からの誹謗叱責を覚悟で臆面もなく、教壇マンであった頃の自分を振り返ってみようと決めた。

松川昇太郎先生のお宅から、歩いて学校まで行く事になった。小田急のガード下が水溜りで通れず、校長先生に付いて土手を上り、線路を渡って中学通りから登校した。昭和32年４月中旬の午後の事である。これが湘南への第一歩で社会科教員としてのスタート、着任式は講堂で行われた。

私は最初定時制課程に勤務して、私と十歳違いで、今年中に古稀を迎える 10 回生前後の皆さんと５年間生活した。積年の思い出があるが、多くを割愛せざるを得ない。当時の生徒は皆勤労社会人で、終業後一目散に登校して、遅刻すると黙礼し着席する人達が多かった。授業は元より、クラス遠足、仙石原キャンプ、体育祭、合唱大会、そして部活動と多彩な触れ合いを共有出来た事に、良き友として生きられた事に心から感謝している。この間、昭和33年２月に校舎罹災という悲運に見舞われたことは、決して忘れられない。

全日制社会科の仲間としての絆を太くしようと、落合先生の提案で、寝食を共にして離島や半島を歴訪する旅を始めた。はじめは八丈島からスタートし、南は復帰前の沖縄、北は金華山、恐山、龍飛から小泊へと漁船で渡り金木へ、渡島半島の江差、能登半島、丹後半島、壱岐・対馬、隠岐等を巡って、所期の目的を達成した。こういう仲間と切磋琢磨して勤務し得た幸せもあった。

校外での生徒とのふれあいは、指導部旅行や体育科主管のスキー教室への参加がある。村田先生の後を承けた指導部旅行は、８月上旬に、市瀬、沢、竹下、松山、佐藤義幸先生外の方々と、学年やクラスを超えた数十名の生徒との旅で、山荘や旅館と宿泊形態は夫々であったが、共に苦しい登山や遊歩と、自然に接しつつ喜びを共有した。訪れた地は、白馬、黒部、大清水・沼尻両方面からの尾瀬沼、菅平の四阿山、裏磐梯の五色沼、そして最後は木曽路であった。

昭和 35 年度から講師として全日制で世界史を担当したが、青二才の私は突っ込んだ質問に立往生し、調べてから次回に答えた。この姿勢は、以後の教壇でも変わらなかった。爾来昭和 40 年代末までの生徒には「世界史の杉山」であったが、昭和48年度から教育課程が改められ、日本史も担当した。

教壇時代の杉山は、限られた時間で受験への備えもしつつ、授業を近代史まで完結させたいと考えた。私は旧制中学時代から「文検」の先生方に、「自己流のリズムをもった符牒で基礎を諳んじよ」と指導され、古文、化学、其の他についても友達同士で符牒づくりを競い合った。噴飯物のシロモノだが、今でも確実に憶えている。

私の授業は、この自分の入試対策を下敷に、教材勉強をして肉付けをし、効率の良さや入試対策をした。良かれ悪しかれ、志望大学進学が当時の湘南の命題であり、それへの対応でもあった。

今でもクラス会等で符牒が唱和される事がある。シュメールからアケメネス朝に至るそれ、フランク王国の、ウィーン会議議定書の、中国王朝の、太政官（だいじょうかん）制の、将軍名の、近代内閣制下の夫々で、みな日本史・世界史の基礎知識の一つである。

また、天保元年（1830 年）で、あるいは 1867 年で世界を輪切った時、どんな地域社会が見えてくるか、４～６世紀の遊牧草原民族の膨張が各農耕地域世界にどんな現われ方をするか等、基本史実が分かっていないと困るだろう。山川出版社の「もう一度読む 山川 日本史」「同　世界史」や「詳説 日本史」「同 世界史」の教科書を去年読んでみたが、あらためて基礎史実が大切だと分かった。

そして読書やラジオ講座、ＴＶ番組の視聴を通して昭和史についての教壇を回顧すると、噬臍（ぜいせい：ほぞをかむ）の思いもあるが、私は、「真摯に取り組んでくれた湘高生と共に、あの時代の湘南を脇目もふらず駆け抜けた。若かった。」と思うのである。

さて、私の近況は、退職してから 20 年間、近世・近代の古文書を解読筆写している。去年からは製糸業関係の文書を扱っているが、生命ある内に沢山解読して奉仕しようと願っている。

人・生き生き

ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校首席教授

尾島　巌 さん（３９回）

＜横浜国立大学学芸学部附属横浜中学校までの思い出＞

私は、横浜市の庶民的な土地柄である弘明寺に生まれ、地元の大岡小学校に入学しました。小学校時代の思い出として鮮明なのは写生の時間です。毎年市内の小学生の写生大会が野毛山動物園で行われましたが、私は何度か入賞し表彰されました。当時大岡小学校の美術の先生は、後に文化勲章を受賞された片岡球子先生でした。片岡先生の鋭い気迫とエネルギーを肌で感じられたのはとても幸せな事でした。先生にコメントを頂いて手を加えると、絵の中の雉やヒグマが生き生きとして来たのを憶えています。

小学校時代は、分析・冶金化学者でもあった父から、模型飛行機、ヨット、ボート等々何でも自分で工夫しながら作り完成させる事の楽しさ、満足感を教わったのは幸いでした。また、野口英世、北里柴三郎、コッホなどの伝記を読み、医学研究と人類への貢献に尽力した偉人達に感銘を受けました。

中学校は、姉の強い勧めもあり横浜国立大学附属横浜中学校を受験し入学しました。附属中は１学年が 96 人、全校でも 300 人以下の小所帯のとても楽しい中学校でした。しっかりしたカリキュラムの中で、特に英語教育が素晴らしかったと思います。英語の先生はとても綺麗な発音をする方で、きちんと発音していると口の周辺の縦の筋肉が発達する事もわかりました。また、米国人の英語の先生が発音訓練を担当し、個々に矯正もしてくれたので、後でたいへん役に立ちました。

スポーツもソフトボール、バレーボール、バスケットボール、テニスと色々やりました。音楽にも素敵な先生がいて、最初女子だけだった合唱部に男子も参加させてもらって混声合唱部にし、合唱コンクールにも出場しました。生意気に新聞部にも首を突っ込んで編集長になり、学校を批判する記事を掲載したため、発刊止めになったこともありました。附属中では、学年皆がお互い良く知り合い、先生との距離も近く、家族的な雰囲気の中で全人格的な教育を受けたと思います。

高校進学の時は、アチーブメントテスト、模擬テスト等で常にトップを争っていた事もあって、学力にはあまり心配はありませんでしたが、どの高校を選ぶかが問題でした。その当時は東京大学合格者ランキングで日比谷、戸山、西などの都立高校が全盛の時代でした。武者修行に、夏休みに附属中の級友と、「東大学力増進会」の模擬試験に、田町まで京浜東北線で通った事を懐かしく思い出します。都内の素晴らしく良く出来る生徒達と知り合い切磋琢磨する機会を得て、とても勉強の励みになりました。しかし、結局、神奈川県内の進学校である湘南高校を受験して入学しました。

＜湘南高校の思い出＞

１年生の時の担任は化学の佐相先生でした。１学期が終了して成績が出た時、私はまあまあ良い成績でしたが、佐相先生から、「わざわざ横浜から来ているのだから、東京大学を目指してしっかり勉強しなさい」と叱咤激励されてしまいました。その後化学を生涯の仕事とした事を考えると、あの時の佐相先生のお言葉に影響されたのかもしれません。２・３学年での担任は国語の石川先生でした。石川先生は大きな心を持った熱心な方で、クラス全員をそれぞれにかわいがって下さいました。かなり生意気であった私と色々な問題に関して真っ向から討論していただけたのは有難く、また懐かしい思い出です。石川先生の影響で漢文や漢詩が大変好きになりました。後に中国蘇州の寒山寺を訪れた時、高校の時に習った漢詩の拓本を故石川先生の思い出とともに持ち帰りました。また、弁論が好きでよくディベートをしましたので、２年生の時には法科への進学も良いかなと少し迷った事もありました。

部活動は最初、バスケットボール部に入りました。楽しみながらクラブ活動をしていた中学時代と違って、高校では勝つことを絶えず意識し、練習も過酷でしたので数ヶ月で退部してしまいました。グループ競技より個人競技の方が自分には向いていると思い、秋には陸上競技部に入部し直しました。私は槍投げと 110M ハードルを競技種目としましたが、400M リレーも走りました。２年生の時、秋の県新人戦では槍投げで２位、ハードルとリレーでも入賞し、その年の県十傑にも二種目で入りました。受験準備の為２年生で退部したのは残念でしたが、現役で東京大学に入学する為には致し方ない事でした。

クラスでは対組競技や合唱コンクールなど皆一生懸命でしたが、体育祭の仮装が一番強く印象に残っています。それまでの単なる仮装行列ではなく、初めてマスゲームに舞踏を組み込みました。ピーターパンをアレンジした独創的な踊りを、海賊グループ、子どもグループ、ワニ製作グループと役割分担して真剣に練習し、その甲斐があって優勝しました。３年生の時には対組リーダーを務めました。惜しくも総合優勝は逃しましたが、総合２位でした。私達の組は皆元気があり、とても個性的でしたが纏まりは良く、勉強も課外活動も頑張りましたので楽しい思い出が一杯出来ました。

湘南高校で、部活動、対組、体育祭を通じ、精魂を傾けて目標を達成する事の充実感を体得出来た事が、私のその後の成長に重要な意味を持っていたと思います。また、いろいろな価値観を持っている友達と自由闊達に議論できた事、音楽絵画等芸術に才能のある人達と親交を深められた事は、私の青春時代を豊かにし人格形成に大きな意味があったと思っています。

＜東京大学、相模中央化学研究所時代の思い出＞

大学は東京大学理科Ⅱ類に進学しました。その当時、宇宙開発においてはソ連が米国に先駆けていたので、これからの科学技術にはロシア語を勉強する必要があるという風潮が高まっていました。そこで私は第２外国語にロシア語を選びました。ロシア語を選択した理科系の学生には、難しい問題に挑戦する意欲のある者が多く、教養課程の駒場キャンパスでは優秀な学生達と知り合う事が出来ました。そして自然発生的に、物理、生物化学、天文学、数学、応用物理等、私が専門とした化学以外の学生達と非常に面白い、いわばエリートグループが出来、６～10 人程度で毎週集まるようになりました。今どういう事がそれぞれの分野で話題になっているとか、どんな研究がこれから重要になり発展して行くのだろうかとか、日本の将来、世界情勢、研究教育、宗教等々突っ込んだ議論をしました。多領域の優秀な学生達との交流は楽しく知的刺激に富んでいましたので、この交流は専門課程の本郷キャンパスに進学してからも続き、生涯の友になりました。この仲間達がその後それぞれの分野で著名な学者となった事は云うまでもありません。

大学卒業時から大学院修士課程に掛けて、熾烈な大学紛争を経験しました。当時、私はノンポリで、学問の師である教授は敬うべきだし、講座制の欠点は改善出来るという常識派でした。事情を憂いた私は突然自治委員長に立候補し選出されてしまいました。理学系大学院では化学専門課程の人数が一番多かったので、理学系大学院全体の活動方針決定にキャスティング・ボートを握る事になりました。化学教室には過酸化物があり爆発の危険もあったので、化学教室の本館と新館をバリケード化して安全を図ったこともありました。こうして、化学教室は最悪の事態を回避すると共に、教授と学生の建設的な対話を進める事が出来たのです。大学紛争中、泊まり込みする時でも私は研究室での実験は続けていましたし、縦割りの講座制であっても共同研究は自由に出来る事を自ら示して、いくつも共同研究論文を発表しました。しかし、大学紛争で本郷キャンパスでは多くの施設と人間関係が荒廃してしまったのは明らかでした。

そのような状況の時、財界と化学工業界との協力によって設立された(財)相模中央化学研究所が活動を開始しました。東京工業大学前学長だった化学工学の内田俊一先生を所長に、東大理学部化学教室の二人の教授を顧問に迎えた研究所は、化学教室のサテライトのような環境でした。しかも、施設は新しくて素晴らしく、研究費も潤沢にあり、基礎研究が十分に出来るユートピアでした。従って私が相模中研に移る事を決めたのは自然な成り行きでした。給料をもらいながら研究をして、理学博士になりました。相模中研は、才能のある研究者を集めて、大学での学術研究とも企業での応用研究とも異なった独創的な基礎研究を自由に行わせ、ノーベル賞に繋がるような研究成果、あるいは画期的な化学技術の開発に繋がるような研究成果を生み出そうという度量の広い目標を掲げていました。

相模中研では学術論文の発表や学会での活動に加えて、特許出願も重要な仕事でした。これは、ドイツ、米国のアカデミアでの発見発明に対する考え方に通じたものでしたので、後に米国の大学に移って研究を続けるようになってからもたいへん役に立ちました。理学博士になって３年後、化学研究者の登竜門である日本化学会進歩賞を 30 歳の若さで受賞し、研究グループリーダーにも任命されて有機金属化学と有機合成化学の先端的な研究に邁進しました。

＜米国ニューヨーク州立大学での研究と教育＞

私の論文が海外でも評価され国際会議等に招聘される事が多くなって来た 1981 年（36 歳）、米国の大学で教授として研究してみないかという誘いが有りました。その当時 30 歳代で日本の大学の教授になる事は非常に難しく、そこで招聘のあった３つの米国大学を訪問して条件交渉をし、最終的に美しいロングアイランドにあるニューヨーク州立大学ストーニーブルック校に 1983 年の秋から赴任する事になりました。研究室の立ち上げ、研究費の申請、大学での講義、教授会と昇進及び終身雇用審査、教授選考プロセス等々、学ぶ事が沢山あり多少の苦労も有りましたが、幸い順調にスタートする事が出来ました。当初、私の「日本人アクセント」が少し心配でしたが、大教室での講義やコミュニケーションも問題無く、博士研究員や大学院生達と尾島研究室の確立に励みました。研究費獲得競争は厳しかったですが、フェアーでダイナミックな米国のアカデミアがとても気に入りました。精魂を傾けて研究を行い論文を発表していると、様々な大学、企業、研究所から招待講演の依頼が有り、米国、欧州各地を訪れる事が出来、知人友人がどんどん増えました。医学

おじま　いわお

昭和 20(1945)年生まれ。東京大学理学部化学科卒、同大学大学院理学修士及び理学博士。相模中央化学研究所主任研究員、米国ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校化学部教授を経て首席教授。同化学部部長を務め、現在は化学生物創薬研究所長としても活躍中。医薬化学、有機合成化学、有機金属化学が専門分野。米国化学会、日本化学会の主要な賞を受賞し、米国化学会の「医薬化学の殿堂」入りも果たしている。米国連邦政府科学、衛生、エネルギー財団顧問、審査委員を歴任。グッゲンハイム財団、米国科学振興連合（AAAS）ニューヨーク科学アカデミー、米国化学会フェロー。またストーニーブルック大学日本センター理事長、ニューヨーク湘友会代表を務める。

部の教授との共同研究や企業の研究者との共同研究も簡単で、研究者同士の興味を最優先する米国科学界の大きさと懐の深さを感じました。赴任して３、４年経った頃から、国立科学財団（NSF）などから研究プロポーザルの審査委員を依頼されるようになりました。これらの審査委員会では多くの著名な教授達と親交を深める事が出来、審査は大変でしたが遣り甲斐がありました。私が４２、３歳になった頃からいくつか日本の大学、国立研究所から帰国の勧誘がありました。しかし、定年の無い米国の大学とは全く異なる事、報酬のレベルに大きな差が有る事、また既にかなりの研究費を確保して順調に研究を進めているのに、ゼロから再出発しなければならない事等の問題があった為、結局米国に留まる事にしました。米国、特にニューヨークにいると自分が「世界人」として活動しているという感覚を持てるのが気に入ったのかもしれません。

その後、1994 年には有機化学で重要なアーサー・コープ・スカラー賞を受賞し、1995 年にはニューヨーク州立大学から首席教授に任命されました。1997－2003 年には化学部の部長を務めましたが、その間、1999 年には日本化学賞、2001 年には制癌剤の研究で医薬化学の大きな賞であるエマニュエル・ハーシュバーグ賞を受賞しました。2006 年には米国化学会「医薬化学の殿堂」にも入れて頂きました。2003 年には化学生物・創薬研究所を設置して初代所長となり、2004 年の秋から活動を開始しました。私としては、現在まで培って来た有機合成化学を中心とする医薬化学研究の集大成として、人類の福祉に貢献したいと思っています。

今年のノーベル化学賞を受賞された湘南高校・東京大学の先輩である根岸英一先生とは渡米以来親しくさせて頂いていますので、根岸先輩の今回のご受賞は本当に嬉しい事でした。今後も研究への情熱を持ち続け、先生と同じように 75 歳までは頑張りたいと思います。

大学での本業とは別に、ストーニーブルック大学日本センターの設立に係わり、現在は理事長を務めています。またニューヨーク湘友会を最近再興して代表になっていますので、ニューヨーク地域に在住の湘友会員のネットワークを広げて行きたいと思っています。

最後に、湘南高校での生徒を対象とした「土曜講座」でも指摘したのですが、国際化（グローバル化）の波の中で、科学技術やビジネスを問わず、日本では現代版「和魂洋才」即ち和英バイリンガルの育成が急務だと思います。これには、英語で考え理解する能力の育成と、日本語の独特なものの考え方や表現を正しく習得する事が必須です。海外で活躍する多くの同窓生に続いて現在の湘南高校の生徒が、「世界人」として逞しく成長して行く事を楽しみにしています。

―大変ありがとうございました。私たち同窓生は、尾島さんのご活躍を今後も祈念しております。

＜2010 年 11 月 7 日グランドプリンスホテル高輪にて＞

聞き手:岩田（39）江藤(36)、柏木(51)

（文責　柏木）

９０周年記念募金収支報告

平成 21 年９月から行われている 90 周年記念募金の平成 23 年３月 31 日までの収支をご報告いたします。

募金額合計（＊注）	１０５，７４０千円
内まなびや基金への払込額	９０，０７４千円
湘友会への入金額	１５，６６６千円
内募集にかかった費用	６，６７２千円
募金残高	８，９９４千円

（＊注）この中には、まなびや基金へ直接入金された法人寄付の７５０千円を含みます。

上記のように平成 23 年３月末で約９百万円の募金残高があります。この資金を資料の編集や映像化等に充てる予定です。

東日本大震災　義援金募金

～ 皆様のご協力をお願いします ～

３月 11 日東北地方を中心に巨大地震が発生し、地震、津波による被害に加え、原子力発電所の事故も報道されました。

被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。

湘友会は母校の要請もあり、3 月 19 日に急遽臨時役員会を開催し、被災者の皆様に少しでも支援できればと、義援金募金を行うことに致しました。

（3 月 24 日付で、湘友会ホームページに記事を掲載）

90 周年記念募金が終了し間もない時期ではございますが、事情ご賢察の上、ご協力の程お願い申し上げます。

○取扱銀行：　横浜銀行　藤沢中央支店
○口座名義：　湘友会　東日本大震災義援金
○口座番号：　普通預金　６０２８５０８

※横浜銀行の本支店の窓口で振込みをした場合は、手数料が無料になります。（平成23年７月29日まで）他行よりのお振込みの際は、所定の手数料がかかりますことをご了解ください。

皆様からのご芳志は日本赤十字社、または地元自治体などを通じて被災地に送らせていただきます。

湘友会　会長　田辺 克彦

活躍する卒業生

❋文化功労者❋

＜2007 年＞

辛島　昇　氏（27 回）

1958 年 東京大学文学部東洋史学科卒業
1981 年 東京大学教授
1994 年 定年退官、名誉教授、大正大学文学部教授
1995 年 放送大学客員教授
2003 年 日本学士院賞
2007 年 文化功労者
2008 年 大正大学退職後、名誉教授

＜2010 年＞

根岸 英一　氏（28 回）

1958 年 東京大学工学部卒業　帝人株式会社入社
1960 年～63 年　休職　フルブライト奨学生として
　　ペンシルベニア大学大学院留学
　　博士号取得
1979 年 パデュー大学教授
1999 年 パデュー大学化学科特別教授

中西 準子　氏（32 回）

1961 年 横浜国立大学化学工業科卒業
1967 年 東京大学大学院工学系研究科合成化学専攻
　　博士課程修了
東京大学工学部助手、同環境安全研究センター教授、産業技術総合研究所化学物質リスク管理研究センター長、安全科学研究部門長を経て、４月よりフェロー、横浜国立大学名誉教授
紫綬褒章（2003 年春の褒章）　横浜文化賞（2008 年）

大野 和士　氏（53 回）

東京藝術大学を卒業　25 歳の時欧州に渡る
2002 年 ベルギー王立歌劇場音楽監督
2006 年 フランス批評家大賞、ヨーロッパ大賞
2007 年 芸術選奨文部科学大臣賞
2008 年 フランス国立リヨン歌劇場 首席指揮者
　　紫綬褒章
2010 年 日本芸術院賞・恩賜賞

ストックホルム国際青年科学セミナーへの参加

片岡（80 回）

ストックホルム国際青年科学セミナー(以下､SIYSS)は、ノーベル財団の協力でスウェーデン青年科学者連盟により毎年ノーベル賞週間行事に合わせて開催され、世界 18 カ国から若手研究者 25 名が集まり、交流を通じて相互啓発を図るプログラムです。この度は、日本国際賞(Japan Prize)を出している国際科学技術財団様から推薦とご支援をして頂き、伝統と歴史のある SIYSS の一員になる機会を頂くことができました。

こうした経緯に至ったのも、湘南高校での文武両道の精神が根幹にあると私は感じています。私は高校時代、部活・行事・勉学という三本柱を軸に、総合力を磨くことに注力していました。その総合力を礎に、大学時代はロボット制御とグローバルリーダーシップをテーマに様々な活動を行ってきました。カナダへの交換留学や、国際ロボコン参加等、その他にも多くの科学技術に関する国際的な活動に挑戦してきました。この度 SIYSS の日本代表に選抜されたのは、こうした活動での成果や成長を評価して頂けたからだと考えています。

SIYSS 参加を通じて得た一番の収穫は、研究者が持つべき素養とは何か、という問いに対する答えを得たことです。

日本大使館から招待された昼食会や祝賀会で根岸先生とお話をした際、貴重なメッセージを頂きました。先生は、世界トップレベルの環境に積極的に挑戦する重要性を力説され、

「研究室や学術領域を超えたグローバル社会への貢献はエクセレンスの追求の報酬であり、世界トップレベルの環境で本質の追求をしなさい」というお言葉は、今も私の心に深く刻まれています。

また SIYSS に参加した各国の代表者との交流や現地の学生への研究発表からも刺激を受けました。SIYSS 参加者は高校生の時から大学で数学の研究をしていた者や、国際物理オリンピックの金メダリストで本も執筆している者、そして生命工学と情報工学を組み合わせてシリコンバレーでビジネスを始めようとしている者等、多彩な研究者ばかりでした。他国の代表者の多くは若干 18 歳前後でしたが､知的好奇心を探求する研究への情熱、研究成果、英語による発表の質、基礎研究を実用へ昇華させる姿勢など、研究者としての気質の高さに大変感心しました。

本セミナーを通じ､超一流の研究者になるためには、世界最高レベルの環境でエクセレンスを追求するというローカルな気質と、異なる学術分野を横断的に扱う積極性や海外の研究者とコミュニケーションを取ることで研究を発展させるグローバルな気質、その両方を備えている必要がある、と強く感じさせられました。そして､21 世紀の社会全体の発展に貢献できるような研究がしたいという想いがより一層強くなりました。

支部だより

藤沢支部

「夏のつどい」においで下さい
今年もリサイタルでおもてなし

昨年は45回生大久保康明氏のテノールリサイタルで大好評だった藤沢支部主催の「夏のつどい」、今年も45回生の**磯部**氏のお話とクラリネット演奏でお楽しみいただきます。

磯部氏は東京藝大卒業、ＮＨＫ交響楽団首席クラリネット奏者を務めるなど幅広い活躍の一方、東邦音大、藝大では後輩の指導にも力を注いでいます。お父様は合唱曲「遥かな友に」作者のあの磯部 俶 氏。

藤沢在住の方はもとよりどなたでも、お誘い合わせて**8月20日（土）18時**、藤沢市民会館へお出かけ下さい。先輩、後輩、同期、同級の交流・親睦をお楽しみ下さい。

「夏のつどい」は従来８月最終土曜日の開催でしたが、今年は第３土曜日の開催です。　（鈴木　41回）

鎌倉支部

鎌倉支部は逗子・葉山を含めて活動していますが、昨年９月18日に鎌倉芸術館で総会を開き、千葉商科大学大学院教授･政策情報学部長 宮崎 緑 さんに講演をお願いし、盛会でした。今年は５月28日（土）６時から、鎌倉の小町の二楽荘で幹事会を開き、湘友会の役員にもご出席いただいて、湘友会の様子を伺い、これからの活動について話し合う予定です。

この幹事会は毎年春に開かれ、鎌倉・逗子・葉山の過去・現在に在住・在勤の方なら誰でも自由に出席できます。気軽に下記へご連絡ください。

事務局：志賀野（47回）

（内海　31回）

平塚支部

平成22年度支部総会・懇親会を、2010年11月27日（土）17時から、グランドホテル神奈中平塚で、川井校長先生、田辺会長にご出席をいただき、支部会員 23 名の参加を得て開催しました。

総会では、川井校長先生から、ノーベル賞を受賞された根岸英一さんが来校された直後だったので、その様子を、また田辺会長からは校史資料館のお話をしていただきました。

懇親会では歓談のあとシャンソンの名曲に耳を傾け、校歌・応援歌を全員で斉唱し、散会しました。

（田中　36回）

学年だより

２０回５卒の会

卒業65年同窓会が、恒例の2010年11月23日藤沢産業センターで開催された。入学時300名の同窓生も半数が他界し、同窓会も５年前から希望者の会に規模を縮小し毎年開催している。今年の出席者は30名、記念写真撮影、続いて宮原君の代表挨拶後、中学時代からサッカーに情熱を燃やし、現在も仲間でサッカーに興じている八星君のクラスメイトスピーチ『熱戦Wカップの感想』と題し、試合の感想が述べられ、岡田監督の戦法など興味深い話があった。懇親会に入り、初見弘君の名司会の下に和やかな一時を過ごした。小原君の指揮で、『浜辺の歌』『雪山賛歌』、高井君が同窓会用に作った『賛歌』『校歌』を合唱、最後に次期代表黄瀬君の挨拶があり解散した。（青木）

２０回４卒の会

卒業65年記念の平成22年度総会は、2010年10月４日（月）藤沢産業センターで開催。田村君制作の「湘中 20 回４卒クラス会の旗」が会場に飾られ、47名出席。今年は川井校長先生にご出席戴き、記念総会にふさわしい会となった。記念写真撮影後、司会堀江君により第１部開会。植木会長挨拶についで川井校長先生から「校長室だより」など資料を基につぶさに近況、特に文武両道につきお話され、心強い限りであった。細君の指揮で校歌斉唱、秋元君の会計報告、鳥海君の監査報告で第一部終了、加藤君の司会で第二部に。根岸君の乾杯の音頭で懇談会。歓談の時間は瞬く間に経過、妹川副会長の閉会の辞、尾島君の三本締めで閉会、記念の写真、菓子を土産に再会を期し家路についた。　（妹川）

２７回生　同期会

平成22年度　恒例の同期会（不作会）は、６月18日（金）17時に、藤沢のグランドホテル湘南において開催した。

出席者94名の殆どが今年77歳の喜寿を迎えるので、今年の不作会のサブタイトルを「喜寿を祝う会」とした。

総会議事は何時もどおりスムーズに終了。続いて同期の佐々木君の「信也の独り言」と題したプロ野球界の裏話は、巧みな話術で会場を魅了した。

来賓の川井校長先生のご挨拶のあと懇親会に入り、ミツキータ麻生とフナダバンドのＢＧＭ演奏で会は最高潮。宴たけなわの中、翌年度の担当幹事クラス（33組）に事務引き継ぎのセレモニーがあり、そのあと全員で校歌斉唱、平成23年度同期会での再会を誓って、それぞれ喜寿祝の特製カステラをお土産に 20 時散会となった。　（32組　山口）

２８回生　第10回　華の二八会総会開催

３月 11 日（金）12 時より横浜ベイシェラトンホテルで「根岸英一君ノーベル化学賞受賞祝賀会・華の二八会喜寿記念会・湘南高校創立 90 周年記念会」と銘打った 28 回生の同窓会が開かれた。出席者 105 名。恩師雨宮先生・竹下先生のご来臨を得て順調に進む。
美声の持主でもある根岸さんの「シクラメンのかほり」熱唱に皆聞き入っている最中に大地震は起きた。シャンデリアのガラスの雨の中を食卓の下に潜り込む。会は中断。その後、参会者が全員無事に帰宅できたことは、不幸中の幸いであった。

尚、昨年 11 月 24 日に母校での根岸さんの講演会が開かれた。急遽近隣在住の 49 名の 28 回生が清明会館に集い、根岸さんとの 40 年ぶりの再会を楽しんだ。
＜Ｐ．15 に写真掲載＞　（堀田）

３０回生

恒例の同期会（第 19 回）は、平成 22 年 11 月 5 日（金）午後 3 時より、グランドホテル湘南に於いて開催。竹下、小山両先生をお迎えし、豪州や国内遠方より同期 90 名が参集、今は亡き恩師・同期生に黙祷を捧げたあと、例年同様和気藹々旧交を温め、同期の絆を一層深めました。この同期会は、皆の願い通り、悠稀会展（第 5 回：11/2～7）の期間中に開催することができ、大変有意義で喜ばしい限りでした。

本年の悠稀会展は、来る 11 月 8 日（火）～13 日（日）、同期会（第 20 回）は、11 月 11 日（金）に開催致します。（会場は、何れも昨年と同じ）

尚、湘友会ホームページに、５年前に開催した「卒業 50 周年記念作品展」及び第３～５回「悠稀会展」の作品を掲出しておりますのでご覧下さい。
＜Ｐ．15 に写真掲載＞　（遠藤）

３１回生

今年度同期会の予告をさせていただきます。

卒業後 55 年たち、16 回目の同期会を人権擁護委員や調停委員で長年活躍し、教育委員も務めた松井（村田）さんに講演をお願いして開くことになりました。友人を誘ってご出席ください。

なお、案内のはがきは出す予定です。

○日時：平成 23 年９月 18 日（日）16：00－19：00
（15:30～　受付）
○場所：鎌倉芸術館　　電話 0467-48-5500
（大船駅東口より徒歩 10 分 大船中央病院傍）
○内容：松井（村田）さんの講演「人権擁護委員や調停委員などを経験して」その後懇親会
○会費：6,000 円
○連絡：内海

（内海）

３２回生

第 17 回同窓会は、2010 年 11 月 6 日（土）13 時～15 時、翌 7 日から始まる横浜ＡＰＥＣ2010 に備えた厳戒体制の中、ＪＲ桜木町駅前の東天紅桜木町ワシントンホテル店で開催されました。37 組幹事として 80 名近い出席者に、卒寿を迎えられた雨宮先生のご臨席をいただき、盛況な会でした。80 名近い出席とは言え、案内 270 名に対して 30%弱。この会スタートの 22 年前とは状況も大きく変わり、次回以後の開催方法の改善について各クラスに呼びかけ、次回幹事の 38 組で検討することになりました。最後に名井君のリードによる校歌・応援歌の大合唱・エール交歓で名残惜しい思いの中お開きとなりました。　（日高・塚本）

いろいろ湘友会

秀麗会（英語研究部ＯＢ会）

2010 年 11 月 14 日（日）、ＪＲ横浜駅東口そごうデパートにある「銀座アスター」において第 31 回総会を開催しました。「秀麗会」は、英語研究部ＯＢ会として 1980 年（昭和 55 年）に発足して以来、活動を継続しています。会員数は現在約 70 名です。

当日は、総勢 18 名が集まりました。幹事の進行のもと、恒例の阿部会長（46 回生）の開会の挨拶と乾杯で始まり、歓談では皆さん懐かしい話また近況で盛り上がりました。スクリーンでは、欠席の方を含めて会員の皆さんから戴いたメッセージを紹介して、お互いの現在の様子を確認しました。その後、昨年同様に過去の旅行の記録を紹介しました。恒例となっている全員の近況報告も行いました。昨年同様に総会に久々に出席した人もいて、お互いに懐かしくも新鮮な再会となりました。あっという間の約３時間の会はお開きとなりました。次年度は 11 月の第２、３日曜日の何れかに開催する予定です。
＜Ｐ．15 に写真掲載＞　（外崎　54 回）

バレーボール部ＯＢ会
湘南バレーボール部創立八十周年記念祝賀会

湘南のバレーボール部は昭和５年（1930 年）に創部され創立八十周年を迎えました。湘南バレーボール湘

第10回　華の二八会総会

30回生　第5回 悠稀会展

秀麗会　第31回 総会

盤谷湘友会（バンコク湘友会）

ブラジル湘友会
（前列右から二人目が田村秀子様）

東京湘南有志の会

友会は2月12日（土）横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズにて祝賀会を開催しました。来賓として川井校長、田辺湘友会会長、元顧問の後藤先生、現顧問の吉浜、高岩両先生をお迎えし、現役部員を含め総勢約130名の盛大な会となりました。14回生梅田先輩の溌剌とした乾杯のご発声を皮切りに、バレー談議に盛り上がり、各年代の懐かしい写真のスライドショー、現役主将の力強い挨拶を経て校歌斉唱で締めくくりました。創立八十周年にあたり先に刊行した『湘南九人制バレーボールの歩み』の続編として六人制移行後の女子部を含めた部史・戦績、対談や座談会の特集記事、広い年代からの寄稿を収めた記念誌を発行しました。

（幹事長　堀井　55回）

盤谷湘友会（バンコク湘友会）

去る2月16日、ちょっと遅い新年会を兼ねて本年最初の例会を開催しました。みんな忙しく、5名での集まりとちょっと寂しかったですが、いつもながら、仕事の話から趣味や昨今の社会、経済情勢に至るまで、様々な話題が次から次へと飛び出し、各自がそれぞれの意見や関連エピソード等を披露し、大いに盛り上がりました。最後はお決まりの校歌斉唱で締めくくり散会しました（歌声が外へ漏れていたようで、店員が“この集団は一体何だろう？”という顔をしていましたが）。

当会は2008年3月の設立以来、その約3年間で計20回参集し、会食やゴルフ、その他のイベント（釣り、スポーツ観戦など）を通じて親睦を深めてきました。当会では、老若男女、個性豊かなメンバーが、「湘南」というキーワードで気軽に語り合え、各メンバーには、通常の仕事や趣味等を通じて出来た交友関係とは又一味違った癒しの一時になっています。ただ、メンバーの多くが駐在員故、毎年入れ替わると共に、最近は帰任者が多く、年々活動が先細りしている感は否めません。致し方ない点はありますが、折角外地で知り合った縁ですので、こじんまりしつつも、時々メンバーが集まる機会は今後も設けていく所存です。幸い、これからは「アジアの時代」と言われ、俄然注目される中で出張等でバンコクへ来られる方もいらっしゃるかと思います。駐在される方は勿論のこと、出張者の方も大歓迎ですので、その際は是非ともご一報願います。

＜上記枠内に写真掲載＞　　（幹事　村松　65回）

ブラジル湘友会

当会は、現在湘南中学校創立者、赤木愛太郎初代校長先生のご息女、田村様を名誉会員として参加して頂いて、2010年に11名の会員でありました。ところが、木村ご夫妻（いずれも56回）がチリー国に転勤となり、9名となってしまいますので、目下、当会を「南米湘友会」と改名して、この両氏に会員として残留して頂くことを考えております。ブラジルはBRICSの中では経済発展成長が上位にあり、日本企業のブラジルへの進出が最近増加しております。今後は、湘友会会員諸氏にも南米への派遣、移住などでサンパウロへのご来訪が増えることと思いますので、更なる交流を期待しております。

昨年は、根岸教授、中西さん、大野さんの受賞をお祝いして11月9日に和食レストランで会食、12月7日には、中華料理店で忘年会、飯野さん（84回、東京農大3年）の来伯を歓迎して、2月20日に中華料理店で会食したり＜Ｐ．15に写真掲載＞、活発に会員相互の交流を図っております。幹事の中山（24回）との年齢差が60歳で、爺と孫のような関係ですが、これからは、若い年代の湘南生がもっとどんどん海外に出て欲しいと思います。

また、上記の田村様は、湘南中学校創立年のご誕生になったので、湘南中学・高校の成長と同じ歩みをされて、毎回の湘友会会合にも欠かさずご来駕戴いております。

校友の皆さんにもご来伯の折は、歓迎会を開催致したく存じますので、事前に本校の湘友会事務所幹事にご連絡して下さい。　（幹事　中山 24回）

福祉湘友会

2010年7月22日（土）藤沢市民会館にて、全46回小林さん〔(社福）藤沢育成会〕を講師に、「知的障害福祉の世界的潮流～国際育成会連盟ベルリン大会に参加して～」について研修、懇親会を、2011年1月22日（土)、藤沢産業センターにて総会・新年会開催。次回も藤沢市民会館にて、本年7月第1～第3土曜日に研修、懇親会を開催の予定です。

昨年は退会される方もいましたが、60回代、70回代の若い人達が新たに参加され、世代、職種等一段と多様化し、福祉湘友会発足の趣旨にそった活動が期待できます。湘南中学、湘南高校の多くの卒業生に福祉湘友会に関心を持っていただければありがたいことと思っています。問い合わせ・連絡は、
全37回　奈倉、全46回　小林　まで

（幹事　奈倉　37回）

東京湘南有志の会

東京湘南有志の会は3月18日交通事情の悪い中、赤坂のアークヒルズクラブに於いて昨年ノーベル化学賞を受賞された米国パデュー大学の根岸英一教授の講演会を開催しました。

根岸教授はフルブライト留学生としてペンシルヴァニア大学に留学され、後にノーベル賞を受賞されたブラウン教授の指導を受けたことが研究生活の進展に大きな契機となったとのことです。パラジウム触媒による有機結合のクロスカップリング理論を素人でも分かる様に説明して下さり、元素の周期表を示しながら放射性のある元素以外はまだ様々な元素が触媒として使え、有用性のある結合方法が沢山見付かる可能性があるとのことでした。

根岸教授はとても若々しく、これからもこの有機結合の研究を積極的に進めて行くとのことで、キューリー夫人の様に2度目のノーベル賞受賞も充分にあり得るのではないかと思われました。
＜Ｐ．15に写真掲載＞　（田辺　40回）

湘友会事務所より

＊寄稿に関するお願い

同期会、クラブＯＢ･ＯＧ会、各種湘友会からの寄稿をお待ちしています。**原稿（300字程度・字数が多い場合は、やむを得ず割愛させていただく場合もあります）・写真（1枚）**を、連絡先を明記の上、事務所まで直接お送り下さい。データＣＤの直送や、文書ファイル添付で、メール送信していただいても結構です。**2月末日締切期限厳守**でお願いします。

なお、記事の掲載にあたっては、基準を設けさせていただいておりますので、ご不明のときは事務所にお問い合せ下さい。　ご協力よろしくお願いします。

＊住所変更連絡・物故者連絡

住所変更は、湘友会ＨＰ、E-mail、葉書、またはFAXで、湘友会事務所宛ご連絡下さい。特に物故者については、連絡者を明記して下さい。

＊事務所へのメール

事務所では、多くの迷惑メールに悩まされています。送信の際はわかりやすい具体的な件名でお願いします。

＊「湘友会報」は、26,000部発送、ＨＰでweb版を見ることができます。

事務所移転のお知らせ

「校史資料館」（仮称）の完成後、湘友会事務所も同じ建物内に移転します。

新住所　：　〒251-0021　藤沢市鵠沼神明5－6－10　（湘南高校内）
電話・FAX　：　0466－50－0386
E-mail　：　shoyukai@cityfujisawa.ne.jp

※電話番号・FAX、E-mailは、変更ありません。移転日が決定次第、湘友会ホームページに掲載します。

平成21年度決算・平成22年度予算

（略）

湘友会費値上げの提案について

財務委員会

母校の創立90周年を迎え、皆様のご協力によって校史資料館（仮称）の着工も間近になりました。

湘友会は、この数年で活動を拡大し充実させてきました。具体的には、湘南高校が実施するキャリア教育講演会（年３回）や土曜講座（年６回）への講師派遣、新入生に湘南高校の歴史と現状を知ってもらうとともに湘友会の活動を紹介する小冊子「秀麗の富士　湘南」を発行するなど、**『母校への支援』を拡充してきました。**

また、卒業生（新入会員）に湘友会の活動をさらに深く理解してもらうための小冊子の発行、湘友会がその開催に大きく携わった「青春　かながわ校歌祭」への参加、湘友会報の増ページとカラー化、会員名簿の発行など、**『会員相互の親睦、交流を図る活動』にも活発に取り組んできました。**

そのため、一般会計の事業費支出が年々増加しています。一方収入面では、通信制の閉課程や全日制の学級減（12学級→10学級→９学級へと減少）により入会金収入が減少しています。また、「10年会費」納入対象者の減少、未納者には納入を督促していますが、納入率が低迷しているため、会費収入も減少しています。

その結果、**一般会計の収支状況は、平成21年度決算では約280万円、22年度予算では約320万円の赤字となっています。**このような赤字財政は毎年度続いており、赤字額を特別会計から補填していますが、それも限界になっています。

今後、校史資料館（仮称）の完成にともなう**湘友会の活動をさらに充実させていくためにも、財政基盤の強化が必要であると考え、下記のように会費の値上げを提案させていただきます。**会員の皆様には、ぜひご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、この件については、湘友会細則第４条（会費）と第10条（細則の変更）に基づいて平成23年５月に開催される役員会に諮り、承認していただければ平成24年度から実施したいと考えています。

≪提案事項≫

１．現行の「10年会費 5,000円（年500円）」を「５年会費 5,000円（年1,000円）」とする。

＊参考：財務委員会で調査したところ、県内の県立伝統校では、概ね年会費2,000円で運営されていることが分かりました。

２．納入の時期は、輪番年及びその５年後とする

定時制部会より

定時制部会長　杉浦

22年度主要行事

４月　入学式　副会長 五百川　出席祝辞述べる
５月　「会報　30 号」発行
９月　「進路セミナー」３年～４年生対象
（湘友会定時制部会の出前講座）

・杉浦会長による個々の面接指導は生徒一人ひとりの入室から退室まで（礼／歩き方／離着席方）兼 就職についての意識の高揚と認識の涵養（求人票の着眼点・履歴書の書き方・自己表現）
・五百川副会長による「小論文の書き方」講座
・谷口幹事（49 回）を中心に卒業生（5 名）による「卒業生との座談会」は、近年卒業した先輩を囲んだもので、親近感もあり、身近な話題を取り上げ好評であり、評価を受けた。

中央が谷口幹事

このセミナーは年を重ねるごとに生徒に定着し、先輩と在校生の絆を深める授業となっている。

12 月　「法律セミナー」
講師：東海大名誉教授　清水 義一 氏（6 回）
今年度は教育キャリア講演会として実施し、演題は「勉学と自立」。睡眠を惜しみ、勤労と進学を目指して苦学を両立させた自身の体験談は、多くの共感を与えた。
講演会には、在校生全員と保護者、講師の同期生が参加した。

３月　天喰事務局長　湘友会への入会説明を実施
卒業式　会長 杉浦出席 祝辞を述べる。

補助事業

７月　全国大会出場者に補助支援
10 月　体育祭に補助支援

創立90周年記念事業対応

平成 23 年２月末までに、1,986,000 円、156 名の募金の協賛を賜り感謝しています。この多数の支援をもって資料館の存在意義と価値観を高め、意義あるものと確信しています。

通信制同窓会（むつみ会）より

むつみ会会長　若命

むつみ会の今

昨年は湘友会の校史資料館（仮称）建設資金の募金に皆さんのご協力をいただき、誠にありがとうございました。完成しましたら、通信制の資料も展示させていただくことになり、記念碑と合わせて、通信制が存在していた証として期待しております。

むつみ会に目を向けてみますと、新会員が誕生しない影響が出てきております。「むつみ会報」も卒業生（毎年 200 名くらい）に配布し、卒業時に湘友会に入会しなくても数年後にとの期待もありましたが、それもなくなりました。

湘友会の名簿の中で、住所が確認されていない方の所在をお願いしておりますが、さらに皆さんのご協力をいただき、一人でも多くの方々の所在を本人了解のうえ、ご連絡くださるようお願い申し上げます。

＊連絡・問合せ先：若命（わかめ）

創立 90 周年記念

「湘友会名簿」発行

会員の皆様のご協力で５年ぶりに新名簿が発行されます。同期会の開催に、クラブＯＢ・ＯＧ会、支部の運営等にご活用ください。

予約販売の形をとりましたが、今後購入ご希望の方は湘友会事務所までお問い合わせください
（1 冊 5,000 円・送料込）。

今回初めての試みで、在校中のクラブ活動所属者のリストを設けました。

また、表紙（表裏共）のデザイン、絵画などを現役美術部の皆様にお願いしました。

なお、湘友会会員以外には販売しておりません。商業的利用等はお断りいたします。

（組織委員会）

2011年　湘友会総会のご案内

6月18日(土)　藤沢産業センター　藤沢駅徒歩３分　☎0466－21－3811

総　会　　10：30　～　　（受付開始　10：00 ）
イベント　　12：00　～
懇 親 会　　13：15　～　　会費：3,000円

2011年度は、卒業回数末尾「1」の方が輪番学年にあたっています 。
全日制：41・51・61・71・81回生、定時制・通信制：11・21・31・41・51回生の皆さん、総会運営の輪番参加をよろしくお願いします。

※来年2012年の総会運営は、卒業回数末尾「2」の方が中心になります。
全日制：42・52・62・72・82回生、定時制・通信制：12・22・32・42・52回生の皆さん、出番です！

湘友会は、皆様の会費で運営されています

「１０年会費」の納入をお願いします！

全日制：41・51・61・71・81回生、定時制・通信制：11・21・31・41・51回生の卒業回数末尾が「1」の皆さん、「１０年会費　5,000円」の納入をよろしくお願いします。

≪郵便局払込先≫
口座番号：00250－4－14177（右詰めに記入）
加入者名：湘友会
金　　額：5,000円
＊通信欄に「10年会費」「卒業回数」を明記
＊払込取扱票が必要な方は、湘友会事務所までご請求ください。

※１９５２年以降のご卒業で、今までの輪番年に「１０年会費」未納の方は払込みをお願いします。

「１０年会費」以外にも、湘友会支部、同期会、部活動ＯＢ・ＯＧ会等の諸会合や、個人からの「寄付」をお待ちしています。

「湘友会ＳＮＳ」会員募集中

＊湘友会会員限定の招待制ＳＮＳです。
＊インターネットを活用して年代・世代を超えての会員同士の双方向コミュニケーションの場を提供しようと2008年2月から試行を開始、2011年2月より、いよいよ本格運用となりました！

[登録方法]
湘友会ＨＰ　http://www.shoyukai.org/　の「湘友会ＳＮＳは こちらをクリック」のリンク先の案内・説明をご覧下さい。案内ページの中ほどから「招待メール」の送信を依頼することができます。

「湘高新聞復刻版」販売中

昭和22年(湘中新聞)創刊号から平成17年発行236号までを収録（B４版・630ページ)。時代背景や湘南高校の主なできごと・写真も掲載、高校生活の懐かしい思い出が甦ります。購入ご希望の方は、事務所までお問い合わせください。1冊3,000円（送料込）です。

第53号 編集スタッフ　（略）

校歌祭 で 歌おう

私たちの心のふるさとである湘南高校の校歌を、仲間たちと一緒に歌いませんか。

校歌祭では、県立26校が一堂に参加します。現役の合唱部と応援団を交え、青春に立ち返り、思う存分に歌いましょう。

秋の一日、気楽にご参加下さい。

校歌・応援歌ＣＤ［湘吹会作成・８曲収録］（1,000円）は、湘友会事務所で直接購入することができます♪

第６回　青春　かながわ校歌祭

♬ 日　時　平成２３年９月２３日（祝・金）
　　開場　11:30　　開演　12:00

♬ 場　所　神奈川芸術劇場
　　横浜市中区山下町２８１
　　Tel：０４５-６３３－６５００

※終了後、湘南高校の出演メンバーによる懇親会を予定しています。当日受付にてご案内します。

♬ 曲　目　（１）校歌
　　（２）選手を送る歌　　青春の歌

♬ 練習会のご案内
　＜第１回＞　６月１８日（土）
　　湘友会総会後　懇親会会場にて
　＜第２回＞　９月１９日（祝・月）14:00～
　　湘南高校多目的ホールにて

♬ 連絡先　　湘友会事務所

湘友会総会 イベント　～ 講演会 ～

１　武谷 雄二　氏（41回）
「社会と医療」

1973年　東京大学医学部
　　医学科卒業
　　医師国家試験合格
1980年　医学博士
1992年　東京大学教授
1999年　東京大学附属病院
　　病院長
2007年　同再任

武谷雄二氏は、東大病院病院長をはじめ学界、教育界などで活躍の一方、湘南高校で2008年から始まった現役生を対象としたキャリア教育「土曜講座」の第1回の講師を務めるなど、幅広い実績を持つ41回生のエースです。

ほかに学界の役職や専門医をいくつも兼ねるという多忙の中、折しも母校創立90周年の今総会で、永年の経験を生かした「社会と医療」というテーマでの講演をお願いしました。ご期待下さい。

２　白石 和行　氏（42回）
「南極観測は今 ― 地球環境と日本の南極観測隊」

1972年　北海道大学理学部地質学
　　鉱物学科卒業
　　第14次南極観測越冬隊
　　設営隊員
1977年　文部省国立極地研究所助手
1989年　第31次南極観測越冬隊
　　あすか基地越冬隊長

1998年と2005年には観測長を務め、南極観測には越冬隊３回、夏隊４回、外国隊など通算12回参加。現職は、国立極地研究所教授・副所長、南極観測センター長。

白石和行氏は、小学校２年の時、第１次南極観測隊に感動。南極を目指して、高校、大学は山岳部。専門は地質学と南極に近づけそうな道を歩んできました。

50年以上を経た日本の南極観測の成果と今後の展望、そして国際的な役割に加え、今まさに問題となっている地球環境について、氏の体験をもとに南極の景色も織り込んで語っていただきます。

校史資料館（仮称）　“愛称”募集！

親しみやすい会館になるように、この建物にふさわしい“愛称”を皆様から募集します。
葉書またはＦＡＸで、①愛称　②卒業回数　③氏名　④住所　⑤ＴＥＬ　をご記入の上、
平成23年８月末までに、湘友会事務所宛て（表紙参照）にご応募ください。
たくさんのご応募をお待ちしています！
＊「湘南会館」「清明会館」という名称は、既に使われています。